

みんな友達



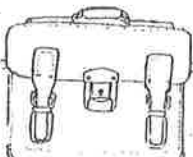
中々にほろろと面すごひなうと思つたのは、廿四女
 やさしいのです。サチが泣きだすと、おぼろけります。ある
 サチは男をまたたき、踏んだりするやういふ
 でした。たにかやういふ男は、痛々しく顔を笑
 いかけています。20はそんなやうです。そして20から

※修学旅行が一番の思い出にあります

一人の女子が欠けました。でもみんなが泣きながら、欠けた
所をなにはさうめてくれます。でもその欠けた所はもう
そこないのです。それだけ今日の20の悲しい所です
でも20はその女子のことは忘れません。

5

には二年生みゝて取り組んでまた同和問題学習が心に残
ります。みゝなで学習している時、発表しやすかつたと思
います。その緊張感も先生たちからやわやわ一生懸命教えてい
る姿かともすほらしかつたからです。い、だからほへは、こんな同和
問題学習が気に入りました。三年になつても反疎生じゃけんと
いって、同和問題学習もしないのはいけなうと思つ、いくら反



※ 二年生に充てずといふクラスに

監生でもこの日は、もとと三年まで
 深めたいからあと思ひました。
 ♪心残りは一つあります。
 同和問題もやせに、時
 私は一言もしやれぬが、
 手も挙げようと、思へども手
 も挙げられぬが、自分
 意見も口に出して、いふことがで
 なかった。それか心残りなすです。



この似顔絵は西暦・林田 両君が「ストロ」にもかかわらず、顔預りができてくれた。
12時30分までかかったという。お世にこの人も、そうでない人もいる。「和もつ美人じゃ！」
なとこいぬす。リラックスして見て下さい。

へ来るのが楽しかったです。20日は、出
発3年生にはおえなくて、親しめやす
かったです。協力するときはお話しし
にしろくとも最後はちゃんと協力できま
るクラスです。クラス全体が仲がさか
たし、ササが男子より強かったです。一
笑みでこれより授業中もおもしろい
質問が出たり、社会の時間の話がそ
れで佐野先生がいろいろ話をするの
をけいこう準しみにしていました。ここ
は準しいことばかりじゃなくて悲しいこと
もあったけど、あの日から少しだけ
みんな大人になつたように感じまし
た。い友達にめぐりあえたことが
とてもうれしかったです。



年通信 ねんしん

2C:学級号 No 5

自由作文でふりがたこの一年の2枚目です。



※二年生になつて前半は休

※ぼく達が主人組と評判がでてきたのは職員室に食べ物(総食の残り)も取りに行きだしてからだと思ひます。もうあの時は面白くてたまりませんでした。先生お目も離したスキに冷蔵庫に寄つて行き、ニヤニヤしながらポケットにこつこつと仲間の方まで取つてきて毎日というほどしてました。そして時には近くの先生に、又飛ん!!とか言われしました。



※たいてい後悔した二と云えば、せっかく柏住さんと同じ班になれたのにあまり話せなかつたことです。でも最初の反柏住さんと酒井さんと井上さんと私の四人でビデオの三についてとても盛りあかりました。修学旅行中、一番笑つた二だったのでもうおぼえています。でも柏住さんと一緒に笑つたのはこの時だけだったような気がします。



全員の自由作文の二と云うのは二と云うんですけど、個人的な反省を除けば、2Cは、柏住さんの死去、修学旅行、同和問題学習、主人組に代表されるワラスのムード、この四つが大きな思い出という柱になつてゐるようでした。ほんとに今年一年先生自身楽しんでくつた仲間と学校生活、おもしろく過ごしました。教室へ行くことが楽しい一年でした。2Cみんな、ありがとう!!



※私はこのワラスが大好きです。すうすうとて明きてちやと下品でやさしくて元気があふふとこころが大好きです。個人的にはハフ立つことさあつたワラスです。全体的に考えていくともうワラスだと思ひます。また私がおれだけ大きい声を出しても静すまらなかつたワラスは初めて。とても気負ひの入るワラスだったと思ひます。

※やっぱり一番思い出に残るのは五人組ですね。将来あの五人がどういふふうになるか、どういふふうになるか、すこしく楽しみ、このまゝの調子をいまのか、それとも心を入れ替えて、まじめになつてゐるか、多分他の人も、もちろん仁木先生も、期待してゐるでしょう。もうすこしく楽しいワラスでした。

担任より

※ぼくは三年生になつてから今まで、一年のときにくらべて、急に一分間スピーチのときとかに恥しくなつて顔が赤くなるやつになりました。赤くならんと思つてもどうしてかなるの、これもはかりです。三年生ではこの二と一番直つてはいいなと思ひます。悲しい二とばかりでした。二年のときにワラスの一人がなくなつた。これは時が経つて忘れていってしまうかも知れません。でも人間の命の尊さだけは忘れられないの、ないです。したります。柏住さんは今どうしてゐるのか、天国というのがあるといふなと思ひます。

※反省したい二と云えば掃除がまじめにできなかつた二と云う。まじめにできた回数より遊んでた二の方が多かつたと思ひます。ひなたは二としたり友達とおしゃべりもしたりで掃除もしないまま終る二ともあったのです。だから保健の先生とかには本当に迷惑もかけたと思ひます。注意された二ともあったのに、二ついつい悪かったです。

※ぼくが二年生になつてもう一つ思つた二とは同和問題学習がいびつた二とです。初めはいいやだやだと思つてました。だつた二としたいにみんな真剣になつたのでほくもしいだいに真剣になつてゐました。C組が体育館であつた時は、ほくは緊張と少し恥しかつて手か上がりませんでした。今思つたり後悔しています。



静美、時局



※ぼくは最初わんりにあまり興味がなかつた。あまり読書に親しみませんでした。今になつたあつたあつたあつたと後悔しています。でも先生、わんりの本を作つた時は思ひ出に残っています。最初のうちはあまり読書してゐなかつた。もう一回読みたい、本がきたらまたひとりと金部読みたいです。

の調子もよく抑さてもいいから、夏休み頃からだんたんときつて、すくなくとも板屋さんと合宿には参加して練習試合もした。それから三日ぐらい、初めて徳島の大学病院へ行きました。二年生では半分都立がでなかつたので、その分三年で補填したいと思ひました。



修学旅行で一番の失敗は、二日目の旅館のとき、まちがってサ子の部屋へ入ってしまった二と云う。スリッパを並べたはずなのにバラバラになつてゐて、なんかわかかんと思つて見たらサ子の部屋だつたので急いで出ました。みづからなかつたのが奇跡でした。思つた二とは男子より行儀が悪い二と云う。

2D 今年の10大ニュース

1. D組ヤッター体育祭 優勝だあー。



2. なわとび大会 新記録(!?)

3. マラソン大会 惜しくも準優勝。

4. 修学旅行 ワイワイ キーキー

5. 公開授業 緊張しました。

6. 文化祭 わけのわからんもんやました。

7. 美味しんぼ大会 強風の中で

8. 人権ポスター がんばる。

9. 坂本恵子先生 教育実習。

10. 西野先生 結婚。淡路島でenjoy!

〈体育祭〉

・僕たちのクラスは、体育祭で優勝できま
した。やっぱり僕たちもやればできるんだという
ことがわかりました。一人、個人競技でもがん
ばって、男子のいかに流しもうまくできました。
練習のときはうまくいかずだめだと思ってい
たけど、本番ではできてよかったです。(山川雄司)

・僕は、体育祭の前日から、徒競走で
一位をとってやると思っていました。相手が
誰であつても絶対勝つ!という意気
込みでした。一緒に走る奴には、強敵
の久保君がいました。皆、久保君は
今より速いという。しかし僕の意
気込みはすくなく、久保君だろうとカ
ルイスだろうと、絶対勝つ!という
決意でした。(近藤恵司)



〈なわとび大会〉

・初めは仕方がないと思っていたんだけど、二回目も
一回も跳べず、三回目も跳べず、結局一回も跳
べず最下位でした。でも、一回というのすこ
ぞと思いき、開きなりました。しかし、あとで
思うと、せめて一回は跳びたかったと思います。
一位のクラスは十数回も跳んでいるのだから、
僕たちとは月とスポンジなあと、思いました。

・僕たちは練習でもへたくそだった。みんなの
息はめちやくちだった。僕も、黙っていたけど
二回つまっていました。練習では最高十八回
だったので、本番も少し期待していたのに……
ちっとしなかった。(平野徳康)



〈マラソン大会〉

・長なわとびなんかは、体育祭でよくしているのを
見ると、簡単そうだなあとも思っていました。
それなのに、今思い出してみると、あのなわとび大会
の結果はなんだつたんだろうと、不思議に思っ
ています。少し情けなかった気がしましたが、今
でもいい思い出に残っています。(稲井美音)

・私は、マラソン大会でD組の準優勝を知って、す
ごく驚きました。私も、学校の近くに帰る
ときまでは四位ぐらいだったけど、あまりのしんど
さに少し歩いてしまい、すると、油断したスキに
抜かれてしまいました。私はこのことがとても心に
残っています。マラソンというものは、一人でがんば
るためでした。みんなが精一杯努力して、やっと喜
びが見えてくるんだということを
知りました。(中島由貴)



・一番心に残っているのは、マラソン大会で僕たちD組
が二位になったことです。クラスが二位になったのも
うれしかったけれど、一番うれしかったのが、マラソ
ン大会で自己最高の九位になつて、クラスのために貢
献できたことです。(北原孝之)

〈修学旅行〉

・彦島の原爆資料館では、原爆で死んでいった人の骨
を山のように積み上げている写真や、原爆でたれた
皮膚や、模型を見て、本当に原爆はおそろしいと
思いました。原爆など落とさないよう、平和がきて
ほしいと思いました。(小沢征志)

学年通信 ねんりん

4月のことを思い出すと、みんな大きくなったなあと思います。
体も心も。
2D No.2

〈公開授業〉

・この一年間、いろいろな行事などが、たくさんありました。その中でも、一番同和問題学習をしてよかったと思いました。

(岡本人美)

・同和問題学習では、みんなの前で勉強して、心臓が飛び出すくらい緊張しながらも、一回手を挙げ、二回あてられて発表しました。同和問題学習をしていく中で、教室の雰囲気も変わり、また自分自身も変わりました。自分自身が変わったと言っても、私の心の差別心が少なくなっただけで、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあると思います。だから、三年生になっていろいろなことを学んでいきたいです。

(吉川理絵子)

・この一年間で学んだこと、知ったことがたくさんあります。その一つは、同和問題学習についてです。二年生になって、同和



問題のことを前よりも真剣に考えられるようになりました。それは、この一年間、みんなが公開授業をしてきたからだと思っています。

(斉藤良子)

〈文化祭〉

・二日の劇は、ブラスバンドの演奏の次だったので、すごく緊張しました。柳井さんの「チェック開」とるぞいも受けたし、私の「グネグネ」もみんなにすごく受けたみたいです。でも、今回の「グネグネ」は、本当に取っらんになりました。

(鈴江晃子)

〈美味しんぼ大会〉

・すごく強い西風の中、二年生最後の行事、「おいしんぼ大会」は決行されました。今思うと、よくあの強風の中で料理が作れたものだと、我ながら感心しています。ホットケーキは飛んでいったし、焼き芋は炭になったりして、焼

(圓藤志乃)



・私たちの班はハンバーグを作りましたが、たまねぎとパン粉を入れるのを忘れ、バターはかたまりが入っていました。私たちの班としては、うまく焼けたと思います。焼けたときに金魚のように、風のこい方に行ったのに、ハンバーグと芋が飛んで行き、お皿まで飛んで行き、大笑いでした。

(桑内一恵)

〈人権ボスター〉

・僕は班長になっていんだけど、みんなをどう動かしているのかわからなかった。下書きも、他の班はとくにできていたのに、僕たちだけ最後になった。下書きができてまた、どんな色でぬいた方がいいか、いろいろ迷った。合格したのも最後だった。僕は、班長らしいことは何もできなかったけれど、みんなが残してくれたらして、僕らなりにできたのがうれしかったです。

(佐忠真悟)

・協同パネルに取り組んで、いろいろなことをパネルから教わりました。初めはみんなじゃらけて真剣に取り組もうとしなかったけれど、だんだんみんながまじめになってきて、下書きができました。大きなパネルに書き出すときは、少し苦労しました。放課後も残って、一生懸命がんばりました。パネルができ上がったときには、すごくうれしかったです。このパネルに取り組んで、協力するということがどんなことかということがわかりました。

(仲田宏二)

〈教育実習〉

・一番に残ったのは、教育実習に来てくれた坂本先生です。先生は、おねえさんみたいな、みんなにやさしくて、おもしろい先生でした。先生と散歩に行ったりとき、楽しくおしゃべりをして、いろいろ笑わせてくれました。お別れするときには、一人一人に手紙も書いてくれて、とてもうれしかったです。りっぱな先生になってくれることを楽しみにしています。

(黒川賀代)



学年通信 ねんしん

1年間支えてくださった保護者の
方々、先生方、そして2Dのみんな、ほんと
にありがとうございます。
感謝します。 2D No.3

結婚

あの西野猛先生が、あの桜間先生と結
婚した。僕は、うわさで結婚すると聞いては
いたが、本当にするとは思わなかった。まあ、
結婚をするというのは別に悪くはないが、
僕は夢を見ていたようではない。今では、
西野先生と呼んでいるが、時々桜間先生と
呼ぶときがある。西野(桜間)先生は、自分で
西野であることを自覚しているのか、僕
にはわからない。改めまして、本当に夢のよ
うな奇跡の結婚、おめでとうございます。

(中リ一之)

私が二年生になって一番心に残っているの
は、先生の結婚でした。先生の結婚式の
写真を友だちから見せてもらったけど、
学校にいるときはちがった先生が写って
いたのでびっくりしました。簡単に言うど、
とってもきれいでした。



(扶川小織)

その他

私にとって、アメリカ人の先生に教えてもらったのは、今
までにスーサン先生とワイス先生です。ワイス先生はいつも笑
顔を楽しい先生です。英語で質問されたときは少し
とまどってしまいますが、答えられたとき、意味が通じ
たときはすごくうれいのです。アメリカでの生活やいろ
んなことを英語で話してくれました。私はそんな話
を聞くのが好きです。英語の授業が楽しくて、ワイ
ス先生にはずっと聞いてみたいです。

(宮崎穂子)

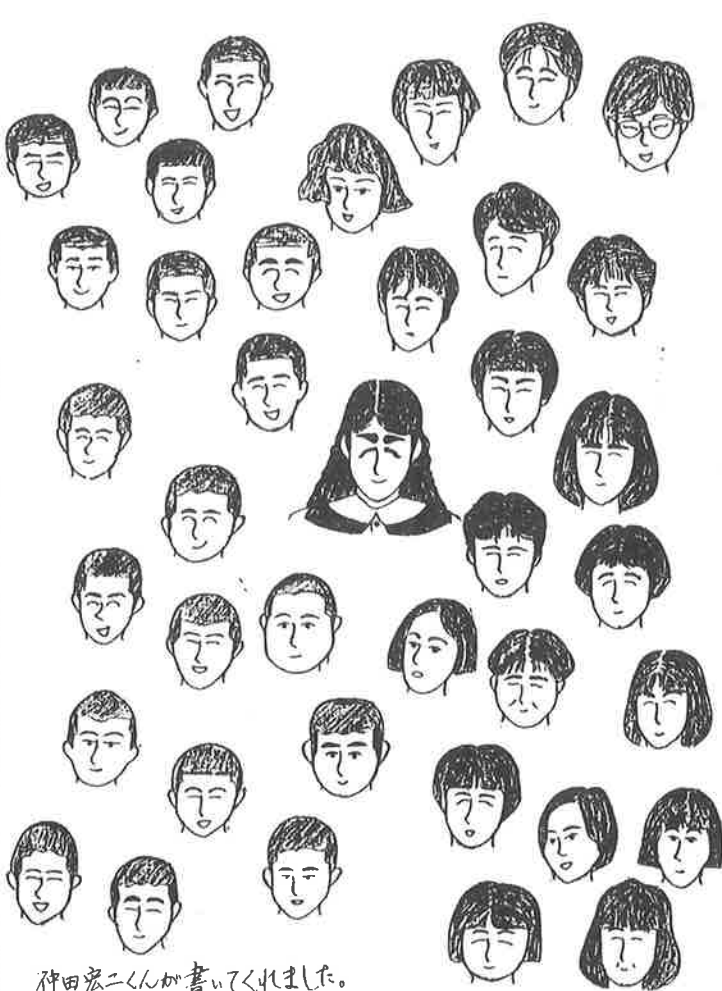
秋の新人大会、先輩たちのチームにくんてあまり強
くはなかったのですが、がんばれたと思います。私も、二年
のときよりアタックがほんの少ししになったなあ、と自
己満足をしています。でも、部活も三年の夏で終わ
り……。今うわいばい練習しておいて、それをいつか
に爆発させ、部活に幕を閉じたいと思います。

(川田和子)

この一年間を通じて、何回ものテストがありました。
私は、この何回ものテストを終える度に、自分が強
くなったなあと思います。テストがある日までは、勉
強中に不安になったりしたことを思い出します。
それと同時に、テストが終わったあとの開放感が
忘れられません。この一年、楽しかったこと、う
かったこと、がんばったことなど、自分がいかにいろん
な障害物にぶつかってきたかがわかります。今ま
で、そうやって過ごしてきたのだから、三年生にな
っても、いろんな障害物を乗り越えられるような
気がします。

(水口和美)

仲田宏二くんが書いてくれました。
似てるかな？



2E 学級号の前に、全体で振り廻るこの1年、まずは生徒のみんなの自由作文からの干渉料です。
(その1)
カットがなくて字ばかりひびいて読んで下さい。

一年を振り返って

ねんりんも終わりが近づきました。まとめのような内容が多くなります。まず第一段はみんなの感想や反省。

自由作文から

「たくさんあるのでワープロで打ちます。」
僕は校内陸上競技大会が楽しかったです。なぜかというところE組に唯一一枚だけある賞状がこの陸上競技大会のものだからです。その時僕は一生懸命走りました。ただ、あともう少しのところで優勝できたのになあと思います。でも、一枚でも賞状があつて良かったなあとも思いました。

* 一年間で二つショックな出来事がありました。それは大好きないちゃん^{ふじ}が亡くなったことと稲住さんが亡くなったことです。未だに信じられないというか、なんともいえずただ悲しい思いです。里帰りをするといつもニコリ笑つていてカレーを作るのが上手だったいちゃん^{ふじ}が座つていてカレーを作るのが上手つくといちゃん^{ふじ}は仏さまになつていて遠い遠い国の人になつてしまつています。稲住さんもそうです。C組を覗けば稲住さんが席に座つてるように思えて仕方ありません。人間の命とは限りがあります。まだまだ先だけ私も遠い国の人になるときは必ずやってきます。そのときに周りの人々に惜しまれる人になりたいです。

* 修学旅行や他の行事が楽しかったのは二年生の先生方のお陰だと思つています。二年生の先生方みんな面白くて楽しい先生ばかりだったから一つ一つの行事が盛り上がりだと思ひます。ねんりんを作つてくれた仁木先生にはどれだけ感謝したらよいかわかりません。なんといつてもあれを楽しく学校に来たようなものです。(半分ウソ。でも感謝は本当。) 中学校生活は間だ一年あつて今度どんな先生に巡り合うかわからないけれど、この二年の先生方は決して忘れなれないと思います。

私を大きく変えたのは同和問題学習でした。私を正しい方向に導いてくれました。この学習におもいつき取り組んだこの二日というクラスを忘れないでしょう。おもいつき取り組んだから私は変わったのだから。

* 今、中学二年というたつた一つの、たつた一度きりの峠を越えようとしています。今までいくつものそれとも一度きりの峠を越えてきました。今、振り返つて見るとこの峠、中学二年という峠が一番難しく、一番短かつたように思ひます。受験に一步近づいたこと、後輩ができたこと、時には悲しいこともあつたけど今はそれも良い思い出になつています。

* 私は同和問題学習が一番心に残つています。自分が思つたことを手を挙げて発言する勇気がなかつた自分だけどやばり差別をなくしたいと思う気持ちには手を挙げられなくても持つていました。しかしそれでは差別は亡くならないと思うし、また私だけの気持ちやみんなの気持ちをぶつけられるようになりたいです。

* クラスの男女仲良く話し合つたり教えあつたりしたのが僕はとてもうれしかった。この一年本当にたのしく、うれしく過ごせたと思ひます。担任の先生の面白さ、二年生の先生の温かい心大変お世話になつたと思ひます。ずっと二年生でいたい気持ちです。

* 2Aの一年間を振り返つて見ました。明るい割には勉強になるとまじめでとても過ごしやすかつたクラスだつたと思ひます。そのクラスにあつたような担任、通称佐野ティチャー(略して佐野ティ)でして、クラス全体としてもまとまりが良かつたと思ひます。自分自身としても友人が増えたことがとても良かつたと思ひます。一年の時のように休み時間暇をもてあますこともなくなり友人関係の幅も広がりました。僕は自分から新しい友人を作るといふのが苦手でなんかのきつかけや、話しかけられるとそのまますんなり友人関係をまいてくれるのですが。やはりそうなのは明るいクラスだつたからだと思ひます。

* 私は心の中に残つてることが二つあります。一つは二年生で初めて校内陸上大会で優勝したこと。二つは一つは同級生の子が亡くなつてしまつたこと。あと一つは同級生の子が亡くなつてしまつたこと。人間の命はこうも簡単になくなつてしまふものなのか、そして死の怖さを思いしらされたような気がします。二年C組の教室にはいつもその子の机の上に花が生けてありました。私はそれを見るたび胸がいたくなりま

* 部活は「主将」という大役を任せられました。充実した練習ができたとはいへませんが、後輩とは兄弟のように過ごすことができ、先輩のやさしさを十分にだしてやれました。また毎日が楽しみだつたものがありました。それは「ねんりん」です。面白いことや悲しいこと、考えさせられることなど「ねんりん」は僕にとつて新聞の代わり以上のものでした。

* 同和問題学習では僕達のクラスは「私の目を見て」という資料に取り組みました。でも僕は何も言えませんでした。あのときは緊張していて言う勇気がありませんでした。でも、みんなの意見を聞いてみるとすごく勉強になりました。先生が聞いたり、それを言い返したりみんな一生懸命に取り組んでいました。僕はみんななんでもそんなに堂々と意見をのこなと思ひました。とても勉強になりました。

* 同和問題学習をしていく中で教室の中の雰囲気が変わりました自分自身も変わりました。自分自身が変わったと言つても私の中の差別心が少し無かつたといふだけでまだまだ学ばなければいけないことがたくさんあります。だから三年生になつてもいろいろなことを学んでいこうと思ひます。それから「ねんりん」は

みんなが何を考えているのかが良く分かり、先生たちの裏話なども分かったりしてすごく面白かったので三年生になっても「ねんりん」みたいなものがあつてくれたらいいなあと思います。

* 子の一年間遅刻がものすごくありました。自分をみつめて見るとなんてけじめの無い人間なのだろうと自分が情けないです。こんな情けない遅刻というものを無くしていきたいです。そして三年生ではテストも大変多いし高校入試に備えねばなりません。部活だってもう半年ありません。三年生では二年生の時よりももっと充実した生活を送っていききたいです。

* 二年生は自分自身がとても変わった年でした。本当にいろいろな面で良くなりました。勉強が自分から取り組めるようになりました。一年の時はお母さんに言われなかつたしませんでした。それで言われるものもすごく腹が立つて、「いまからするわよ」と言っていて怒りながらしたものでした。勉強になったのかどうか。しかし、先生や友達のお陰で勉強の仕方も分かってきたし。お母さんがとっても喜んでいきます。でも、自分自身が一番うれしいです。このようにこのように上がってきたのは先生や友達のお陰です。これかもしろんな人たちに助けられながら自分が育っていくんだと思います。そう思うとこれからの出会いが楽しみです。みんなとても大世話になりました。

* 心に残っていることは、やっぱり手にまめを作った頑張った長縄飛び大会です。みんながとっても団結して楽しそうだったのでホントに楽しかったです。生活上のことでも僕自身ずっとやってきて良かったと思うことは「生活ノート」です。「生活ノート」は三学期からだけほんとにずっとまじめにできるだけ長く書くことを目当てとして今まで頑張ってきました。子の「生活ノート」は僕にとって一番大切な宝物。

* 2年生は僕にとって本当に充実した年でした。部活や修学旅行、同和問題学習など忙しく、またとてもいい思い出になりました。部活は本当にがんばり果て優勝もできたし、練習していても前にはできなかったことができたし、練習していても前にはできなかった。そして、ほかの学校の子とも仲良くなりました。一年の時は「今日も部活がある」とかいつていたけれど、今は部活をしているときに一番楽しいです。

* この一年間一番心に残っているのは同和問題学習です。体育館での公開授業やクラスだけの学習など自分でいうのもなんですが良く発表できたと思います。みんなもすごくいい意見をたくさん発表していました。周りの人たちの意見に本当に感心させられました。みんなの意見を聞いていて私が手を挙げようと思った時、みんなの意見がすばらしい過ぎて、「こんないいんやめようかいな」と何回も思ってたけど間違えは無いです。そして頑張った発表しました。やっぱりあの意見を発表して良かったなあと思います。子の一年間、同和問題学習を続けてこられたのは先生方やクラスの友達、2年生のみんな、という周りの人々のお陰だと思います。この一年間は本当に心に残る一年だと思っています。一生心から離れないとおもいます。

* もう、安らぎのある保険室へは行くことは無いだろうな。

もう、3年生になるんだからな。
心入れ替えて自分を少しづつでも磨いていこうと思ふ。

安らぎなんかもう求めて甘えたりなんかしないから……

* ところでお母さんが中学生くらいが一番楽しいといっていたけれど私もそう思います。それも中二。1年はと感があるし、3年はもう大変だし、2年生が

修学旅行やらなにやらで一番楽しかったと思うのです。「かった。」という過去形が辛いのですが、できることなら、あと二、三年くらい中二でいたいんです。今思うとやり残したというか、もっともっとやりたいことがあつたんじゃないかと感じます。

* いろいろなことを勉強したしクラスの仲でもいろいろおもしろいこともあつたし悲しいこともあつた。でも、何か一つもの足りないような感じで、いろいろあつたのになんといつていいのかわからないけれどとにかく未だ完全にやりとげていない気分です。どうしてかは分からないけれどこの二年でやってきたことをみんなひつくるための答えみたいなものが未だでていない。これはなかなか簡単にはでてこないと思う。

最初二年E組になったときはあまりとまだ嫌いで一学期の最初のうちは毎日がしんどかったけどだいに友達が増えてきて毎日がとても楽しくなってきました。僕はこの二年生の時が最高に良かったと思います。修学旅行とかは一生忘れないと思います。この一年を振り返ってたくさんの友達とであつていろいろなことを学びました。今、3年になるのが何故か悲しいです。こんないい友達と離れ離れになるのは少し悲しいです。

* もうこれで2年生として作文を書くのも最後だと思ふと2年生もそろそろ終わりが近づいたんだなあという実感が湧いてきます。私が初めてこの自由作文の用紙を手渡されたときから今まで書いてきた作文はこの一年のあゆみ、思いでももあるし三年生になるための踏み台にも思えてきました。いつかは今書いている作文や日記が思いでになったら良いなと思つていきます。

* この一年間で忘れることのできない一番大きな事件はやっぱり稲住さんの死だと思ふ。十四歳の私たちが

学年通信

ねんりん

1年と振り返って—その(3)

この号より保護者の方の感想もいただきました。ありがとうございます。

保護者の方の便り

二年生の一つの締めくくりとして保護者の方にそれぞれの立場からの感想をいただきました。

には稲住さんの死は大きくやりきれない思いで一杯になった。どこにも持っていきようのない思いと後悔の気持ちで何もかもいやになっちゃった。稲住さんが死んでしまってから分かったことが一杯あったけどもうどうすることもできなくていままで気付かなかつた自分がばかしくなっちゃった。後悔の毎日。先のことより今の悲しさに浸っていた。だけど、月日が経つに連れて稲住さんがいない生活が当たり前のようになってきた。時々そんな自分に気付いて自分を責めたりして稲住さんのことを思いだしていた。誰かが稲住さんの席の近くで暴れていた。それが聞くとすごくうれしくなる。普段は何もいわないけれど心の中ではちゃんと稲住さんのことを思っているのだと思うとうれしくなる。稲住さんはいなくなっちゃったじゃないと思う。

* 早いもので二年生も残すところあとわずかにまりました。中学生ともなれば、とくに男子の場合はその日の出来事など話題にはしないのですが、今年一年間は「ねんりん」を通じて安心して子供たちの様子が見られたり、明るい職員室の風景も覗かせていただいたり。

時には「ねんりん」の話題で食卓の料理が一品増えたような賑やかなこともありました。それも形あるもののこして頂けるので大変喜んでます。きつと良い記念になるでしょう。先生方本当にお世話になりました。

* この一年間いろいろな行事に参加するなか、すべてのことが勉強と反省の連続でした。以前はほとんど学校任せでありましたが子供たちと接していく

うちに、それではいけないと思うようになり、今後あらゆる機械を通して学校と家庭が協力しなければならぬと痛感いたしました。ただ自分の子供との接触だけでなく広い視野に立ち子供の目線にあわせて心の通いあう場作りを保っていかなければならないと感じました。

* 4月桜の花咲くころ中学へ入学して早2年が過ぎようとしています。今年も受験シーズンを迎え親子ともども大変だなあとつくづく感じ来年は我子の番、今からどこの高校にと頭を悩ましています。中学三年間はあつという間にすぎ、親は少しでも子供に勉強して欲しいと願ひ、勉強しろ、勉強しろと口やかましく言い、われに返ったとき、子供も大変だなあと反省することもしばしば。今年は三年生。最後の一年、自分の持てる力を振り絞り、受験に向けて力一杯頑張つて欲しいと願っています。

(一) 以下、ときにコメントをさせていただきます。保護者の方にコメントなどとおがましいのですが、何よりも同じ親として、担任としての考えを書いてみたいと思います。それと、私(仁木)のお願いの仕方が悪かったのか「ねんりん」に対する激励が多くちよつと気恥ずかしいもしております。何か、むりやりほめ言葉を書いてもらつたようで、氣を使つてもらつているなあ、と申し分けなく思つたります。

* 最近子弟の間の暖かさが薄らいでいく中「ねんりん」を通して教室から、職員室、保健室、生徒の「あゆみ」から甘感じたなつかしい暖かい雰囲気。私たちが家庭に伝わってくる、ホンとにありがたいものでした。眼氣を我慢して机の前で夜遅くまで頑張れた子、ぜんぜん書けなかった「あゆみ」が「ねんりん」に載る楽しさみえ味あうようになった子、あの力強い先生の熱心な教えに答えられなかった子。

それも思い出としてこの一年温かみのある家庭的雰囲気の中で勉強し培った心意氣を三年生まで十分發揮して欲しいと思います。もし、今年の2年生に家庭的な温かみがあったとすればそれは私たちのみならず、子供たちの力に負うところが大きいと思います。みんなで作り上げた二年生であつということを建前でなく言います。

* 板野中学校「ねんりん」の編集に当たってお礼を申し上げます。子供がお世話になってはや二年になりこれほどまでに学年の先生が子供を思い学校を思い毎日のように「ねんりん」を発行して頂き子供たちの学校生活が家庭にあつて手にとるようになつて感謝しております。このすばらしい「ねんりん」をいついつまでも絶やすこと無く続けていただくとくようよろしくお願い致します。

* 「ねんりん」を楽しく読ませていただいております。子供たちと先生のやり取りが目に見えるようです。学校での子供たちの様子、先生方の人柄まで伝わってきます。最初と比べて文章も軽快になつて上手になりました。三年生になつても続けてくださいます。

* 比較的ゆったりできるこの時期、ともすればボーンと過ごしがちですがこの「ねんりん」のお陰で先生や子供たち、また、父兄との何かほのぼのとした親密感が生まれて大変充実した学校生活が送れたのではないのでしょうか。お忙しい中での毎日のような「ねんりん」の発行に感謝の気持ちで一杯でございます。何かに、づいたとき、困ったことがあつたとき、もうすぐ迎える3年生の心の糧として勉強に頑張つて欲しいと思つてます。ねんりんに対する身に余るおほめの言葉を頂き穴があつたら入りたいような気持ちであります。

*

がっこうの、事が
くわしく わかるのは
ねんりんな 先生方のおかげ
ん…と 考えさせられること
ついつい 笑いを誘われること
うれしいこと
しつぱいしたこと
ん…と たくさんの思い出がありとう
ねんりんを通してわかる
みんなの生活 先生方の横顔
りっぱに 成長したね この一年
ん…と はばたけ
天までも



(これは作るの大変だったことと思います。考えて
みれば「ん」が四つも入っているんですか。苦勞
された後が伺われます。ありがとうございます。)

*

①野球②陸上③一ヶ月一冊の読書④勉強 頑張
る四つの課題をあげている。ある日、群のマラソン
大会にでる決意。大会の前日、陸上部は明日に備え
て軽いトレーニング。でも彼は、それから野球の練
習といった具合。とても大変なことのようです。今
できてないのが勉強。まず時間が無い。テレビをみ
たいし、ファミコンもしたいし、友達とも遊びたい
いやなこと難しいことだからできるだけ避けて通り
たい様子。ここで何度もスランプ。つい顔をみると
「勉強しなさい。頑張りよ。」と言ってしまふ。彼
は嫌がるのだが、彼を心から応援しています。決
して勉強ばかりしなさいという気持ちからではない。
この課題の中から勉強を除いてしまわないように、
最後までやり通して欲しいからである。

「この課題の中から勉強を除いてしまわな
いように」ということ大切なことに思っています。
私たちは別に勉強のことばかりいつている分けては
ないのですが、どうも子供たちは「勉強ばかり言う」
と受取がち。それは子供にとって一番いやな部分だ

からだろうと思っています。だから、嫌がろうがど
うしようが言うべきときにはいつていきたいとす
ね。

* 毎日夕食時になると子供に「今日のねんりんは」
と聞くようになっていっている今日この頃です。子供の様
子、二年生の先生方のチームワークの良いところが
「ねんりん」に¹み出ています。後二週間足らずと
なりましたがこの調子を三年生になっても続けて欲
しいと思っています。

* 敏感にゆれる子供たちの青春の日々を、試行錯
誤を繰返し、一喜一憂する姿を、日々成長を続ける
彼らの学校生活を克明に伝えて頂ありがとうございます。
ました。

* 心も体も若い人たちへ

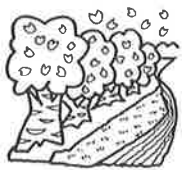
幸せになりたいね
いつもそう思ってきたのに！
四十歳になり 思いだけでは だめなこと
やさしい心を持ち
強い信念で

柔軟な自分の価値観で
みつ 育てる そう気がつきました
一人ぼっちじゃなくて 人の中で



どうぞあなた方の思いや考えを内に秘めないで、話
してください。語ってください。いろんな考えがあ
り、いろんな人が一生懸命生きていることもわかる
と思います。

* 二年生も後わずかになりましたが、「ねんりん」
をありがとうございます。正直言って最初は「ふ
うん」と思い、途中で余りの発行部数に「読むのも
大変だわ」と感心したり、うんざりしたこともあり



ました。でも、今ではなくてはならない愛読書にな
っています。お陰様で子供の学校生活や最近の中学
校の様子を知ることができ私自身の中学校のころを
思い出しながら子供と一緒に話すことができました。
また、二年生の先生方の熱い思いは知らないうちに
子供たちの心の栄養となつて伝わってくることでし
よう。「継続は力なり」をねんりんを通じてお示し
くださつたと思います。子供たちも3年生になつた
ら今まで経験しなかつたようなことであうと思ひ
ますが、「十五歳のバストを尽くして」頑張つて欲
しいと思います。

* 学年通信「ねんりん」を一年間本当にありがと
うございました。お陰で子供たちの気持ちや様子、
先生方のこと学校の行事などがよくわかり楽しく読
ませていただきました。一年分を冊子にしていただ
けるとのこと、楽しみにしています。できれば来年
も続けて欲しいと思いますが、ただ父兄の投稿が少
なかつたのが残念すね。

* 先生のユーモアとウィットにとんだ文章、素直
な自分を出した生徒たちの「あゆみ」。気取らない
暖かい文面に朝の忙しい一時を忘れ心とみながら読
ませていただいております。子供も中学二年生とも
なると学校生活の多くを語ろうとはしません。だか
らこそ「ねんりん」によつて得られる安心感と信頼
感は何にもかえがたいものでした。もうす愚中学3
年生。受験を控えますます不安な日々を送る子供た
ち。そして私たち親のためにまた「ねんりん」に
お会いできることを楽しみに待っています。

*「ねんりん」の発行部数は授業日数よりも多く何よりすばらしいのは二年生の先生方のチームワークの良さとご協力で仁木先生が毎日発行し続けたことだと思えます。執筆された仁木先生を初め二年生の全先生方にお礼を申し上げます。普段子供とは十分にはないあうことの少ない親ですが「ねんりん」で子供の考え方や学校生活の様子がよくわかり着実に成長しているのを感じます。ときには先生方の素顔もご披露して頂き毎日楽しく読ませて頂いた一年でした。三年生になると進路のこともあり先生方は発行部数を減少してでもぜひとも発行して欲しいと思います。「ねんりん」はいろいろなことを私たちに教えてくれましたがとくに訴えたものが一つあると思えます。それは小さなことでも毎日続けて積み重ねていくと大きな力や実になり、人間には難しいことですがとても大切なことであるということです。二年生の皆さんは一年後は高校入試です。三百号になろうとする「ねんりん」が数日でできないのと同じで勉強も間隙になつてあわてても実力が付かないでしょう。スポーツでからだを鍛えることももちろん必要ですし、勉強の方も毎日コツコツと努力し、自分の一番の希望するところへ進んで欲しいと思います。中学校最後の年を悔いの無いよう大いに頑張ってください。

以上、生徒諸君の反省と保護者の方の感想も終わります。一人ひとりにコメントもしたのですが、時間もなく省略させてもらいました。最終号でもこの形で書ければと思うのですが、保護者の方からは身に残る言葉もいただきました。私も初め、全二年教師団への激励の言葉と受止め、今後も精一杯頑張ります。ありがとうございます。ありがとうございました。



副担任の先生方からの

メッセージ

六車先生

Time flies like an arrow. (光陰矢の如し) 前にも書かせてもらいました。本日に月日の経つのは早いもの。来賓、諸先生、そして先輩の待つ入学式場へA組桃井先生、B組西野先生、C組六車先生、D組柴田先生、E組中川先生に導かれて入場し小さな胸にあふれる希望を持ち中学生になったのは昨日のように思えます。しかしもう三年です。最上級生としての重責を果たす、そして将来を決定する進路に向かっての努力する、義務教育最後の年を迎えようとしています。「今日やるべきことは今日やりとげる。明日は明日のやるべきことがある」予定を立てて一日一日を過ごしているはずですが、「今日は疲れた、だから今日の予定は明日へ」、今やっている学習は明日へ、「これだけは無くしてもらいたい。眠いときは自分だけではない、級友、そしてライバルも同じように眠いのです。そこで眠ってしまったら競争に負けてしまいます。いい意味でのライバルと競争しているはず。総いとうきに級友、ライバルの顔を思い出し今日の予定をやりとげることが力を付け人間として成長すると同時に目的を達したときの喜びは多きはずです。一日一日を大切に。思い出に残る中学三年生としてください。

柴田先生

人間というのは障害物にたいして戦う場合に初めて実力を発揮するものなのだ。(サン・テグジュペリ「人間の土地」より)彼は童話「星の王子さま」の作者として知られていますね。三年生になる皆さんに「贈る言葉」です。それぞれの目標をクリアできるよう確かな歩みをしたいです。

天狗石先生

一年間というのは長いようでいて過ぎてしまうと

早いなあと思えています。笑ったり怒ったりみんなと一緒に過ごした日々は「ねんりん」と共に忘れがたい思い出となることでしょう。そしてまたいろいろな出来事を通してチャレンジ精神や団結力のすばらしさなどみんなから教えられることもたくさんありました。ありがとうございます。お陰でよく肥えました。

(心がー心がー)これからのこともっと大きな人間になれるように頑張つてそれぞれが持つている原石を今以上に輝くように自分で磨いて欲しいと思います。先生も、もう十分美しいけれど(ー?)負けないように努力していきます。このねんりんが配られたあとはブーイングの嵐だろうか。

玉田先生

「今日は何のようになるだろう」と2年生全体で取り組んだ同和問題の公開授業を私はいつも楽しみにしていました。後ろで見てもみんなが少しずつ成長していっているのがわかります。授業を参観することは私にとってもとてもよい勉強になりました。

橋本先生

学級旗、縄飛び大会、公開授業、「みんなで何かをする」ということのすばらしさを教わった、そんな一年だったと思います。

橋本先生

この一年いろいろなことがありましたがなかでも、学習会や同和問題との出会いはこの先自分が人間としてどのように生きていくのかということを考える上で心をゆさぶられた出来事でした。今までの生き方を反省する機会にもなりました。部落問題を初めあらゆる差別の問題はこれからももっとみんなで考え取り組んでいかなければなりません。部落出身であるとか、身体に障害があるとかいうことが、社会生活をする上でどうつてこない、何の障害にもならないという社会にするために。そのことを一人一人が真剣に考えていけば、今にこの地球が思いやりの心で一杯になる日がきつと来るでしょう。